

SGH基調講演会

“Try to use your life for something that does change the world.” by J. Watson

「世界を真に変革する何かのために、君の人生を使おうとしなさい」

5月9日(月) 16:30より、「**長崎でグローバルを考える**」というテーマで、長崎大学の片峰茂学長によるSGH基調講演会を開催しました。高校1年生全員が聴講し、「**グローバル**」**ということの意味**や「**グローバル化の功罪**」について学びました。



冒頭では、「国際化」と「グローバル化」の違いについて、世界地図と宇宙から見た地球の姿を使っの説明がありました。世界地図では、世界は国境によって国別に分けられており、国と国との協力が必要である(国際化)。一方、宇宙から見た地球には国境はなく、そこで起きている様々な出来事は、地球規模で起きていることである(グローバル化)。その象徴として、私たちに身近な企業が、日本国内よりも海外でより広く展開していることが指摘されました。「日本国内の企業に就職しても、海外で働かなければいけない」という事実、「グローバル化」の波は私たちにもすでに大きく影響していることを知りました。また、グローバル化の負の側面

として、地球温暖化、食糧問題、感染症、テロや戦争などの問題が、人・モノ・金の瞬時の移動によって地球規模の問題へと発展していることが挙げられました。もはやこれらの問題は遠い所の問題ではなく、私たちにも影響を与えてくる問題であるという現実には愕然とするばかりです。しかし、このような時代だからこそ、「**地域の課題を解決しようと努力することが、世界貢献につながる**」のであり、それは東高が取り組んでいるSGH研究(グローバルスタディ「ナガサキタイム」で実施)の研究理念に通じるのだと実感することができました。講演の最後には、IoT (Internet of Things)、BD (Big



Data)、AI (Artificial Intelligence) に象徴される情報革新についても触れられ、これからの世界に生きる生徒たちに「**主体的に学ぶ**」ことの重要性を説かれました。片峰学長の熱いメッセージは生徒一人ひとりに十分に伝わったものと思われます。今回の講演は、生徒たちの今後のSGH研究に進むべき方向性を示してくださったと同時に、SGH研究の大きな拠り所となったことでしょう。



ご講演を受けて、生徒を代表し1年2組の吉川亨佳さんがお礼のことばを述べ、「**世界に貢献できるように、主体的に学ぶ姿勢を身につけたい**」と決意を表しました。